明日を拓くひとの発想ペーパー

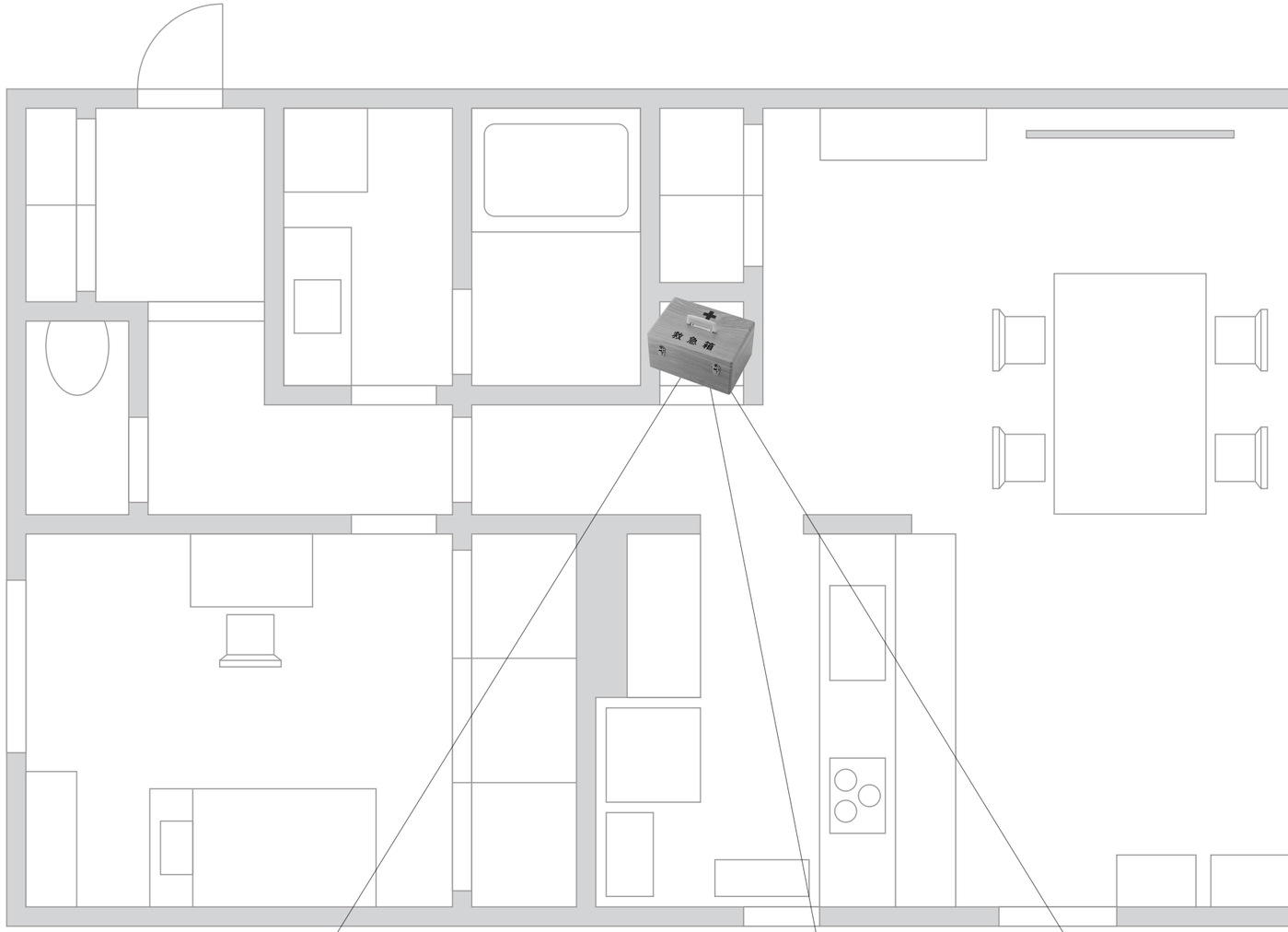
生活者

おくすり生態学

2013.12 Vol.9
博報堂生活総合研究所

健康意識の変化は、おくすりたちに何をもたらしたのか。

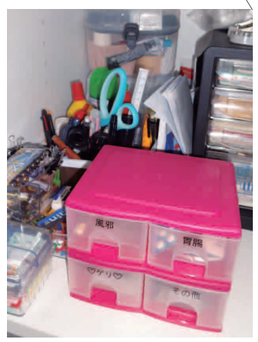
かつて、どこの家庭でも、おくすりはまとめて1ヶ所に閉じ込められていました。
救急箱がある家なら、その中には体温計から包帯、消毒薬、風邪薬、胃薬、
そして頭痛薬などが詰まっていました。
専用の引き出しにおくすりを押し込めていた家もありました。
ところが、「病気の治療より日常の健康」というように健康意識が変化してきたことで、
その「あるべき場所」からおくすりたちが飛び出して、家のあらゆる場所に生息し、
昔とは違うイメージで見られるようになっています。
まるで、おくすりたちが生活者とのコミュニケーションをとりながら、
新しいすみかを探しているかのように思えるほどです。
今号では、そのおくすりたちの様子を、生活者の撮影したリアルな写真を通じて
考えていきたいと思います。



昔から続いていると思われるおくすりのしまわれ方

居間の整理ダンスの一角。必要な時に取り出しやすいから。(61才男性)

リビングの桐だんすの引き出し。なるべく集中して保管している。(63才男性)



文房具など普段使うものを置いている場所。必要な時にすぐ取り出せるから。(31才女性)

今回の調査では、自宅におくすり類が置かれている様子を写真に撮ってもらいました。
「おくすり類」の例として、次のようなものを挙げています。

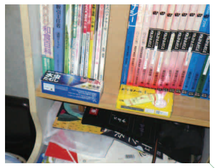
市販の一般用医薬品、医師に処方された医薬品（風邪薬、胃腸薬、のど飴・トローチ、目薬、軟膏、湿布、うがい薬など）／ サプリメント、栄養補助食品、栄養ドリンク ／
絆創膏やマスク、発熱用冷却シートなどの衛生用品 ／ 手指の殺菌・消毒用品 ／ 民間療法として使用しているもの ／ 薬効のあるハーブ類 ／ その他、自分がおくすり類にふくまれると思うもの

広がるおくすりたちの生息地

「食」にとけこむ

食と健康が一体化して考えられるようになったことを象徴する言葉として「医食同源」があります。これは中国に古くからある「薬食同源」をもじった日本の造語で、1990年代から使い始められた新しい言葉なのです。ともにバランスのとれた美味しい食事こそ、健康のもとだという意味ですが、おくすりたちは「われこそは、食事同様に健康の源泉だ」と解釈したかのように、食事の場に自然に溶けこもうとしたり、あたかも食材のひとつであるかのように振る舞いはじめています。

【手元・枕元へ】


寝室のベッド脇の本棚、就寝前に使うことができるから。(65才男性)

居間のワゴンの端にフックでつるしてある。形状が大きいので他では収まりが悪いから。(60才女性)

リビングのイスにかかっている手提げ袋。毎日のように使うので。家族に持ってきてもらうのにも便利。(39才男性)

居間の本棚にフックをつけて、袋の中に入れ、ぶら下げてあります。(63才女性)

【外にも同行】

化粧ポーチの中。いつでもどこでもすぐに使えるように。(23才女性)

アウトドアで使うリュックサック。外で手をアルコール除菌する為。(37才女性)

缶ケースに入っています。いつでも使用できるように持ち歩いています。忘れるとかなりショックな気持ちになります。(27才女性)

「身近」によりそう

おくすりは、病気になるまでしまっておくものではなく、常日ごろから健康を維持するために使うものと意識されるようになってきました。そうなると、おくすりに期待されるのは、どんな瞬間にも使う人に寄り添っていることです。いつも手がとどくところに控えていること、枕元にも控えていること、パソコンや嗜好品を飲食する時などの毎日の習慣をサポートして待機していること。これが、おくすりの心得なのです。最近はコンビニでもおくすりが手に入るようになりましたが、外出先でも一緒にいることは使う人を安心させます。そう、使う人とおくすりは、一心同体なのです。

【パソコン中に】

デスクの上。家にいる間で一番長い時間いる場所だから。ハンドクリームや目薬。(25才女性)

パソコンデスクの上。すぐに手が届くところなのでコンタクトレンズの保存液を置いている。(31才男性)

【ながらくすり】

コーヒーを入れている間や朝食と一緒にこのサプリメントを飲むことを忘れません。(43才男性)

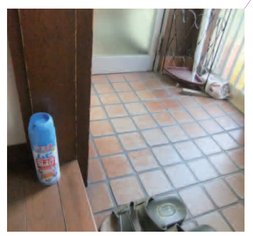
台所でタバコを吸った時に飲むサプリメント。タバコを吸うたびに失われるビタミンCを補給する。(43才男性)

【洗面所から出る】

キッチンとダイニングを仕切るカウンターに手の消毒液。より清潔、消毒を意識して使い始めました。(29才女性)

【玄関へ】

玄関の下駄箱の中です。虫関係の薬を固めて置いておく。(35才男性)


玄関上がり框。虫がいる所に行く前に。(66才男性)

玄関の靴箱にマスクを置いています。インフルエンザ対策で毎日のように持っていきます。(24才女性)

「持ち場」がうごく

予防意識が強まってきたことで、家の中に虫や菌が入り込まないようにと、異常なほどに気を使うようになりました。お茶の間で焚かれた蚊取り線香のように「待ち」の姿勢から、おくすりたちは「攻め」の態勢で持ち場から出撃しはじめています。蚊や蟻の一匹も通さないぞと、玄関で待ち構えるおくすり。同じ玄関には、外出先で風邪にかからぬよう家族を送り出す役目を担うおくすりもいます。家の中では、細菌やウイルスを見つけ次第退治するため、各所に展開して警備するおくすりたちのすがたをよく見ます。

【食卓へ】

2階のダイニングに置いてある机の上。食後に飲むものが多く、飲み忘れない。(31才男性)

リビングテーブルの上。ほぼ毎日朝夕、食前や食後に定期的に服用。(56才男性)

ダイニングのテーブルの上。サプリは朝晩必ず飲む。(54才男性)

キッチンのカウンター。通販で購入した鉄分のサプリメントが塩の隣においてある。(29才女性)

【調味料化】

キッチンの調味料のコーナーに置いています。目につきやすいので、家事の合間でもすぐに飲めます。(33才女性)

リビングの机の上。みんなが使うところで使いやすい。(21才男性)

キッチン、台所の後ろにある台。飲みたいときに飲んでいる。(30才女性)

【お菓子化】

ダイニングルームの棚にあるお菓子を常備しているかごの中に一緒に入れている。(26才女性)

【冷蔵庫へ】

冷蔵庫の棚の中。冷暗所に保存。(56才男性)

冷蔵庫のドアポケットの最上段です。子供のシロップと整腸剤を入れています。(22才女性)

冷蔵庫の野菜ボックス。箱がかさばるので、スペースの有る野菜ボックスに。(61才男性)

【食器棚へ】

食器棚の中。食器棚の中に絆創膏や消毒薬を入れることが通常。(44才男性)

台所の食器棚に置いてあります。茶碗がそばにあるから飲みやすいので。(69才男性)

食器棚。使い始めると複数日使用するから。(56才男性)

食器棚の中段、薬類は食器棚のいろんな場所に置いてある。(21才男性)

キッチンのカウンターの中の棚。錠剤も水がすぐに用意できるので置いている。(56才女性)

【水場へ】

台所の横においています。水をくんでそのまま飲めるのでそこにおいています。(39才女性)

【台所へ】

台所のＬ型カウンターの角の部分。ごはんの準備をしている最中にすぐ飲める。(43才女性)

キッチン／ダイニングのそば。食後にすぐとって飲める。(31才男性)

【テレビ台へ】

テレビ台の中。最も身近な場所で中もよく見え、すぐに取り出せるため。(61才男性)

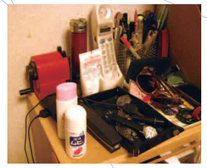
【カレンダーのそばへ】

自室のカレンダーが置いてある棚の上。自分専用のサプリメントで、毎日忘れず服用する。(56才男性)

リビングの電話機の横においてあります。日常的に、使用頻度は少ない。(51才男性)

【電話台へ】

電話の横に絆創膏、前に虫さされの薬、後方に塗り薬。我が家では目に留まりやすい場所なので。(47才男性)


居間の棚の上。鍵や電話など、毎日使うものと一緒。家族誰にでも分かりやすい場所です。(41才女性)

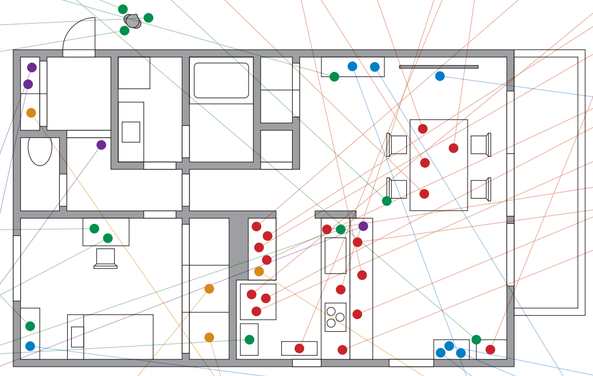
【本棚へ】

自分の雑貨や本などが置いてあるダイニングテーブルの近くの棚。視線に入りやすく飲み忘れない。(47才男性)

リビングの本棚内。リビングが日常の活動拠点であり、一目で見渡せ手に取りやすいため。(27才男性)

「視界」をとらえる

家の中には、昔と比べると、驚くほどさまざまなおくすりがあふれています。おくすりにとって、積極的に目立つ場所でスタンバイしていなければ、使われる機会がないのです。そこで、目が自然に向きがちな、テレビや電話の近くで、振り向いてくれるのを待っています。しかし、生活空間の中で、おくすり以外のもののあふれ方も尋常ではありません。おくすりたちは、目立つ場所に居ようにも、小さな細いすきまに立つしかありません。スリムなくすり、小さいけど背の高いくすりなど、いまおくすりたちはスタイル競争の時代です。



【衣替え待ち】

押し入れのカラーボックスの上に、マスクの買い置き。(53才女性)

クローゼット内の上段。季節によってよく使ったりあまり使わなかったりするものを置いている。(23才女性)

食器戸棚に風邪薬をスタメンでおいている。スタメンと控えの入れ替えをするのは、季節の変わり目です。(44才女性)

「出番」にそなえる

おくすりたちは、いつも全力で働いているわけではありません。あるおくすりは、緊急の出動要請があるまで、普段は休んでいます。冬服と夏服の衣替えのように、季節が変わり、病気が流行のピークを迎えるまでは、目立たぬ場所でじっと身をひそめているおくすりたちもいます。一方で、シーズンの終わりを迎えて、次の出番まで休息場所に移動してくるおくすりもあります。

【非常袋へ】

緊急災害等に備えて非常食と同じ場所に保管しています。(25才男性)

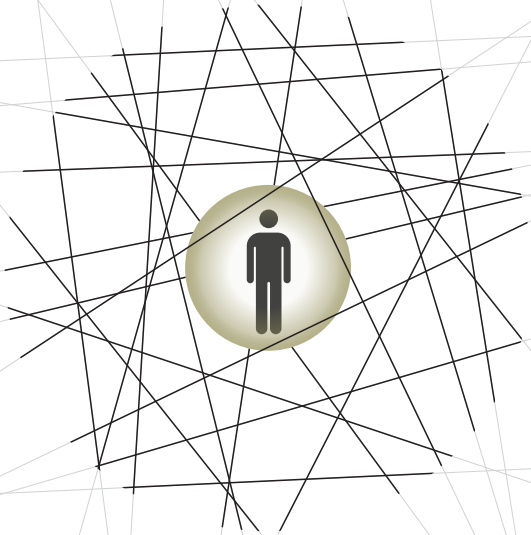
ヘルスバリアの構築

健康志向はブームというより、もはや常態化した生活風景です。ちょっとした体調不良ぐらいなら、身体の不安は隠し事ではなく、公然のこと・自分の持ちネタとして語られるようになりました。それにつれて、部屋の目につかないところにあったおくすりは、住まいのそこかしこに「普段の生活品」としてひろがっていきます。さらに健康知識が深まるほど、備えておきたい・試してみたいバリエーションも増えました。いまやおくすりに囲まれた暮らしの空間自体にも、安心をもたらす効果がありそうです。私たちは、神社やお寺の護符で結界を張り巡らし、「病魔退散」を願うヘルスバリアを築いているかのようです。

ネットワーク(網)から、コクーン(繭)へ

今号で着目した「おくすりの生態」を、生活行動の象徴として考えてみましょう。商品やサービスへの関心は、爆発的な情報網と、それに伴う知識アーカイブのおかげで、どんどん外へとひろがりました。膨大な情報と消費のチャンスは、私たちに楽しさをもたらす一方、「外界は、なかなかシビアである」意識も膨らませていきます。健康に対する関心が深まれば、自分の健康は万全ではない不安も膨らみます。つながる楽しさがひろがれば、つながりから自分を守らなければならない意識も強くなります。

私たちはいつのまにか、拡張した情報や消費意識の編み糸を紡いでコクーン(繭)のような安全地帯を作りだし、オープンでフラットな空間のなかに、あえてバリアを張るような工夫を始めていないでしょうか。たとえば、クローズドなSNSや、外食産業における個室ブームは、ある意味で「つながる・ひろがる」時代から一歩引いた、コクーンの一種とも考えられます。外から内へ。オフェンスからディフェンスへ。意識の変わり目は、身近な暮らしの中に見え隠れしています。



今号の発想リソース

「私の家のおくすりたち」写真調査

自分が使うおくすり類を、自宅内でどのように置いているのか。
その様子を写真に撮ってもらい、状況を説明してもらいました。
(首都圏／20才~69才男女／234人／インターネット調査／2013年9月)

生活者 Vol.9

発行：株式会社 博報堂
企画編集＆発行人：博報堂生活総合研究所／生活者発想NEXTフォース
電話：03(6441)6451
http://seikatsusoken.jp/

生活総研
HAKUHODO

デザイン：グラムコ株式会社　印刷：日経印刷株式会社　発行日：2013年12月17日

©2013 Hakuhodo Institute of Life and Living, HAKUHODO INC. All rights reserved. 掲載内容の無断複製・転載を厳禁します